

トリフォニーホール《ゴルトベルク変奏曲》2007  
Triphony Hall "Goldberg Variations" 2007

# セルゲイ・ シェプキン [ピアノ] Sergey Schepkin, Piano

ヴァリエーション × 変奏 = ∞  
シェプキン × Variation = Infinity  
Schepkin × Variation = Infinity

## J. S. バッハ／ゴルトベルク変奏曲 BWV988 (1741-2) Johann Sebastian Bach／Goldberg Variations BWV988

J. S. バッハ／カプリッチョ「最愛の兄の旅立ちに寄せて」BWV992 (1704)  
ソフィア・グバイドゥーリナ／シャコンヌ (1962)

「わたしにとって、最高のゴルトベルクはグールド、ペライア、  
そしてシェプキンである」  
(アメリカン・レコード・ガイド)

「この驚嘆すべきバッハ弾きは若きグレン・グールドの情熱とドラマ性を持つ」  
(ニューヨーク・タイムズ)

「類い稀な、非凡な能力と高潔さを持ち、多様なアプローチと洞察力をも備え持つ」  
(ポストン・グローブ)

「シェプキンは古楽の要求するものと彼が演奏する現代のピアノの可能性を同じように楽しんでいるかのように聴こえた」  
(ワシントン・ポスト)

「シェプキンは自身の演奏する音楽の中に消えていく」  
(ポストン・ヘラルド)

「シェプキンはバッハに挑戦する全ての演奏家のハードルを上げた」  
(ファンファーレ)

2007年 3月2日 (金) 7時00分開演 (6時30分開場)  
March 2, 2007 (Fri.) 19:00 start (18:30 open)

すみだトリフォニーホール  
Sumida Triphony Hall

料金 [全席指定] : S¥4,000 A¥3,000  
(トリフォニークラブ会員は各10%引き、同時入会申込可)

前売開始: 10月29日(日)  
予約・お問合せ: トリフォニーホールチケットセンター 03-5608-1212

10<sup>TH</sup> ANNIVERSARY  
SUMIDA  
TRIPHONY  
HALL

## インタビュー

### ゴルトベルク変奏曲について

I (インタビュアー):

ゴルトベルク変奏曲はグールドの不滅の2つの録音で非常に多くの人々に知られるようになりました。あなたはどのようにあえてこの曲でCDデビューしたのですか。

S (シェプキン):

「ゴルトベルク」を演奏することこそ、グールドの精神へ尊敬の意を表すのに相応しい行為です。しかし「ゴルトベルク」には多様な解釈を許容してくれる懐の大きさがあるため、再録音の恐怖は一掃されるのです。

I: 現在の古楽奏法についてどう思いますか。

S: 演奏家は誰でも、時代時代の奏法を学ばなければならないと信じています。強弱、フレーズ、アーティキュレーション、音栓の選択、繰り返しの装飾、いずれも明確な考えなしにバッハは演奏できないのです。

また、多様な解釈を受容すべきだと、私は信じています。解釈は研究に基づくべきで、研究はその見返りとして洞察力を刺激してくれます。「自然な演奏」という名の仮面をつけた「無知」に基づくべきではありません。そして研究から学びとった情報を現代に合わせて再処理し、以前には不確かだった何かを創造する推進力とするのです。すなわち斬新で靈感に満ちた解釈を。

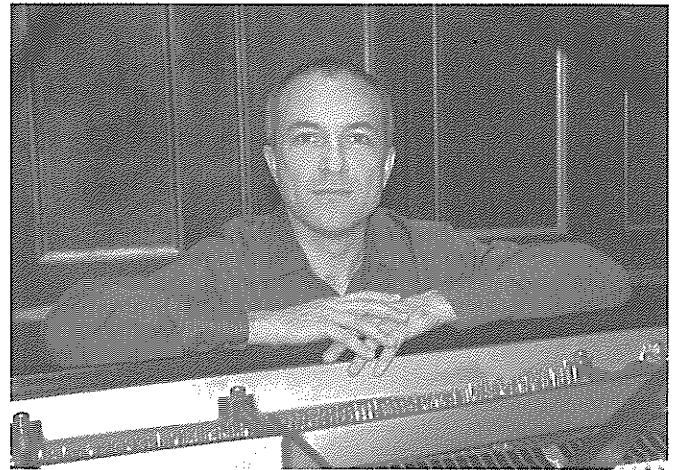
I: 楽器の選択についてはどうですか。

S: 私はバロック音楽を現代のピアノで演奏するという考えを軽蔑する人たちに多く出会ってきました。しかし、ピアノを「ハープシコード(チェンバロ)を超越した楽器」のように演奏する、というのが私の考えです。ハープシコードの事前に設定された音に束縛されず、声部の相互のからみをより緻密に構築することができ、ひいてはバッハの入り組んだ対位法的テクスチャーに報いることができるのです。

I: あなたは全て忠実にリピートしていますね。聴衆を飽きさせる心配はありませんか?

S: 逆です。リピートは音楽の単なる形式的繰り返しではありません。リピートは演奏家とその場で同じテキストの異なった読み方の可能性を示唆するのです。陽光をダイヤモンドの表面で遊ばせるチャンスです。

私にとってはこれがまさにバッハの音楽を魅力的なものとする要素なのです。全てが開放的です。書法はもちろん厳格ですが、課せられた制限の範囲内でも(あるいは制限があるからこそ)豊かな発想と感情が生まれるのです! そして、ゴルトベルクは機知と感情が一体となった作品になっています。



## プロフィール

### セルゲイ・シェプキン [ピアノ]

ロシア系アメリカ人ピアニスト、セルゲイ・シェプキンは世界各地で数多くの演奏会に登場してきた。特に、S. バッハの演奏会と録音で高い評価を得ており、ニューヨーク・タイムズ紙は「この驚嘆すべきバッハ弾きは若きグレン・グールドの情熱とドラマ性をもって演奏する」、「バッハ愛好者はこれらの演奏を聴かずにはいられない」と絶賛した。1993年1月、ニューヨーク・カーネギー・ホールでのデビューは高い評価を得、以来、リンカーン・センター、メトロポリタン美術館等、ニューヨークでの演奏会に繰り返し登場している。今年10月にはニューヨーク・リンカーン・センターで行われる「グレン・グールド・シリーズ」に数多くのバッハ弾きとともに出演することが決まっている。

CDはバッハ/ゴルトベルク変奏曲、平均律クラヴィーア曲集全曲、バルティータ全曲、ドビュッシー作品集、ムソルグスキー/展覧会の絵などが Ongaku Records よりリリースされている。

<http://www.schepkin.com/>

## トリフォニーホールイゴルトベルク変奏曲

[シリーズ過去の演奏会]

第1回 2006年3月9日 マルティン・シュタットフェルト(PIANO)

※都合により公演内容の一部が変更となる場合がございます。  
※未就学児のご入場はご遠慮下さい。

●入場料 [全席指定] : S ¥4,000 A ¥3,000  
(トリフォニークラブ会員は各10%引き、同時入会申込可)

●前売開始: 10月29日(日)

●ご予約・お問合せ:

トリフォニーホールチケットセンター 03-5608-1212

●前売り: チケットぴあ 0570-02-9990

e+ (イープラス) <http://eee.eplus.co.jp>

チケット・クラシック 03-3376-1919

東京文化会館チケットセンター 03-5815-5452

■主催・企画: すみだトリフォニーホール

■招聘制作: デュオ・ジャパン

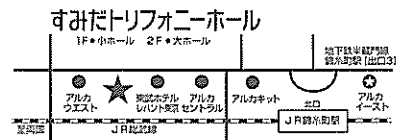


文化庁芸術拠点形成事業



<http://www.triphony.com>

★JR総武線「錦糸町駅」北口★地下鉄半蔵門線「錦糸町駅」出口3——徒歩約5分



## すみだトリフォニーホール

★JR総武線「錦糸町駅」北口★地下鉄半蔵門線「錦糸町駅」出口3——徒歩約5分

# MARTIN STADTFELD RETURNS

再来日決定! マルティン・シュタットフェルトが再びトリフォニーホールに登場!

今年3月、日本中の注目と期待を集めて「ゴルトベルク変奏曲」で日本デビューしたマルティン・シュタットフェルト、大好評を受けて2007年6月に再来日することが早くも決定!

今回は「リサイタル」と「コンチエルト」の2公演。プログラムは「リサイタル」ではモーツァルト、シューマンが、「コンチエルト」では新日本フィルとのバッハ、ベートーヴェン「皇帝」(I)が予定されている。

去る8月には「サルツブルク音楽祭」にリサイタル・デビュー、成功をおさめたニュースも日本を飛び回ったばかり。新たなシュタットフェルトにご期待を!

2007

6/20 (水)  
リサイタル

6/22 (金)  
コンチエルト

★2007年1月  
チケット前売開始予定!

すみだトリフォニーホール